京城新報

●新聞料 一ヶ月金…　●廣告料 …
●陰曆 五月七日
發行兼編輯人 印刷人 秋山忠三郎
發行所 京城西署西小門通 京城新報社 電話六六三番

宮相李允用(一)

翠山生

▲狡獪狐の如く奸黠狸の如きは是れ言ふ迄もなく一般朝鮮人の天性である、而も此の狡獪と奸黠との權化たる一般朝鮮人の天性を遺憾なく代表せしものは、疑ひもなく現下彼の宮相として之が宮中の勢力を一手に支へ、擧手投足爲人の眼を欹たゞしむる彼れ李允用ではあるまいか……而も彼れ李允用、彼れは確に紛れもなき朝鮮人の典型たると同時に又其の彼れが今日の如き顯榮の地位を占むるに至つたのもツマリは之が天性から起因したものである、我儕は今彼れが性行閲歷を叙述し以て讀者諸君の一粲に供しやうと思ふ、

▲彼れが父は素と京城での歴々たる兩班で丁度今から五十六年許り以前觀察使か牧使かは確かに判らぬが、何れにしても相當な役目を帶びて平壤に赴いて居つたのである其の時父は膝許に妻女を殘して行つた所から、ツヒ一人寢の閨淋しく、ゆくりなくも土地のある妓生と剃なき關係を結んだが其の結果因果の胤を宿させ頓て其の妓生は月滿ちて玉の如き兒を生んだのである、サテ其の玉の如き可憐の兒が即ち彼れ李允用で彼れは實に戸籍上紛れもなき私生兒たると共に今の總理大臣李完用とは正しく腹違ひの兄弟なのである、

▲頓て時を經て父は任滿ちて京城へ歸つたが歸國後は更らに彼れが一身上のことを顧みざるのみか、月々の仕送りさへ碌々せず殆んど構ひなしの姿であつた母も大分之れには困つたが併し幸ひ彼れが男の兒であるゆゑに將來は何んとか役にも立つことだらうと思つて別に氣にも止めず唯我が兒の背丈伸びるを樂みにして只管彼れが生長を待つて居つたのである、

▲併し母さても浮川竹の流れの身假令我が兒が可愛いからと言つて何時迄も空しく遊ばして置く譯には行かぬ、依て或る日彼れを膝近く呼び寄せて細々と言ひ聽かせた「お前は知るまいがお前のお父さんといふは京城といふ都で歴々たる兩班丁度今から十七年前其の兩班が貴い役目で當地に來た時圖らずもお母さんが大層其のお方の御寵愛を受け其の揚句出來たのがツマリお前、成程腹は賤しからうが胤は確かに立派なもの、ソレに何時迄此のやうな所に燻ぶつて居つたとて所詮將來の出世は覺束なき程に今より其の實際の父を賴りに京城に至り身の振り方を計りなば何んとかお前の爲めになるやう力を盡し呉るゝは言ふ迄もなきこと、善は急げの譬への通り一刻も早く京城に上るがよからん」と懇々との物語りであつた。

▲彼は此の意外なる母の言葉に首を垂れたまゝ暫時無言であつたが稍やあつて顏を擧げ「お母さん一伍一什のお話しはよく分りました、ソレに就け私は確かに其の歴々たる兩班の胤に相違ないのですか、思へば何となく夢のやうマサか嘘でもありますまい、ソレならお言葉に從つて只今から其の顏をも知らぬ懷かしき父を尋ねて京城に上りませう」と彼れは孤影悄然母の膝下を辭し遙々と花の都に上つて來たのである。(つゞく)

浮世ぐさ

●電氣鐵道の始

明治二十三年内國勸業博覽會のありしとき東京上野公園四軒寺前に一町程の間にレールを敷き、電氣にて往返する車を仕掛け、數錢づゝ衆庶に試乘せしめしを始めとす、尤も實用電氣鐵道は二十八年の春京都市内に敷設したるが始めなり

●鐵道馬車の始

鐵道馬車は明治十五年六月二十五日新橋日本橋間に馬車六輛を以て往復を開始したるを始めとす、同日は假開業にて午前十時に發車し、本府少書記官銀林及び土木課の官吏三名一車に乘り組み、新橋より日本橋迄往復し、續いて六臺順次に發せしが此の日終日の雨天にも不拘乘客は實に溢るゝばかりにてありき

●軍樂の起り

歐式軍樂の我邦に傳來せしは、實に明治二年の秋なり、薩長土の三藩に徴兵仰せ付けられ、同年九月鹿兒島藩より歩兵二大隊二砲坐上京することゝなりしが其の中數十名は軍樂傳習として横濱に差遣さるゝこととなりたり、これ當時英國の歩兵及び軍樂隊の恰かも横濱に屯在せしが爲めなり、次で薩長土の諸藩主は樂器を英國に注文し、傳習生は該軍樂隊長ヘント氏に就き、鼓隊(鼓隊とは一小隊に横笛一管、喇叭一管、小鼓一個にして、大隊每に大鼓一個を加ふ)の傳習を受けしが尙同三年六月注文の樂器も到着したれば間もなく卒業せり、其の樂譜は日本國歌(當時編制せし君が代)英國行進譜及び徐行進譜等僅々數譜に過ぎざりしなり

小説 新不如歸(二十八)

篠原嶺葉著

大礒なる招仙閣と云ふ旅館の樓上に、欄干に倚つて遙かの海上を眺めて居る、若い兩個の男女がある。

男は二十七八の色の白い、艶な髭を鼻下に蓄へた、背のスラリとした、非常の好男子で、黒ッぽい一樂織の襲袷に白縮緬の扱帶をグル〳〵と卷きつけて、手に小さき双眼鏡を持つて居る。



女は二十歳前後で、梶田半古の筆になつた當世美人が、繪から脫け出たかと思ふ程の美しさである。

個はこれ尾花敏男と、百合子とが結婚の翌日相携へて蜜月の旅に上つて、二三日前より此家に宿泊して居るのである。

日は麗に、天際はどの雲も浮べず、近くは一帶の松林翠烟然ゆるが如く、遠くは淡靄水天の境を罩めて眠るが如く、宛ら名家の筆になつた一幅の山水かと疑はるゝのである。

敏男は彼の双眼鏡を取上げて、遙の沖を眺めて居たが、

「百合さん、百合さん、早く御覧よ、向ふの巖の上に鴎が二三羽宿つてるよ、全然で繪だね」

「あら然う、些と眼鏡を貸して下さいな。」と云ひつゝ双眼鏡を受取り、眞白な手に取上げて、

「貴方、何の邊です、早く敎へて下さいな。」

「では私の指す方に眼鏡を向けて御覧……どうだ見ゆるだらう、あのズーッと手を出したやうな松の少し右の方に」

百合子は指されたる方を頻に眺めるのであつたが、

「あの貴方、どの松なんです、手を出してるやうなのは幾個もあるんですもの……」

と、恰も小川に宿る月の如き優しい眼色で、敏男も嬉しさに堪えぬ如く莞爾と笑つて、

「幾個もあるッて、那樣に幾個もあるものか、あの小さな山の裾の所に、一本目立つて大きな松の木があるだらう、あのツイ下に恁う云ふ格好にニユーと枝の出た松がある、其の左の巖の上なんだ。」

と、自分の手を伸して枝態の形容を爲て見せた。百合子は微々と笑ひながら、

「然うですか、では能く見ませうね。」

「早く見ないと迯げて了ひますよ。」

又も眼鏡を取上げて、敎へられた方を眺めるのであつたが、

「あ貴方、見へました、見へました、まあ何んて愛らしいでせう、鴎が日南ぼッこして眠てるんですわ、本當に繪に書いたやうですことね……どうでございます、ぶら〳〵那の邊まで散歩に入らつしやいませんか。」

「可厭ー。」

「なに可厭ぢやないさ、百合さんが行きたいと云ふなら、何處へでも行くさ。さア早く仕度なさい。」

「私もう、これで宜いのですわ。」

「では、直に出かけやう。」

「貴方こそ其風でも召すと不可ませんから羽織を召して被在やいまし。」

と云ひつゝ亂箱の中から、鹽瀬に綾子の額裏をつけて、五ッ紋の羽織を出して被せた。

「百合さんも被てはどうだ、あの邊は寒いかも知れないよ。」

「では私も被て參りますわ。」

兩個は宿を出て、相並んで一條の小徑を辿り、彼の巖のある濱邊の方へと行くのであつた。

方針を變ずる勿れ

京城新報

唱者聞く處に依れば暴徒鎮定の方法に就て觀察使等の意見は軍隊討伐を非なりとし、其理由を彼是と云爲し、各道書記官迄が附後の行政上に支障ありとの理由を以て軍隊討伐に反對の意見を有し、伊藤統監亦た此說に傾聽して方針を復舊せんとする傾向ありと、之れ果して眞なりとせば由々敷大事なり、亦聞く外人等も軍隊討伐の非を鳴らし日本軍隊が正邪を分別せずして虐殺を行ふものなるかの如くに誣ゆと統監の方針復舊は此外人間の非難を怖れたるにも基因すと、兩者何れが眞なりや、余輩は統監が斯る俗說の爲に一度確立せる方針を變じて、軍隊討伐を撤廢するが如き薄志に非ざるを信ぜんとするも、統監が從來の行動を顧れば深く懸念するの止むを得ざるを知るなり、

觀察使等が其非を唱ふるは更に怪むを要せず、彼等が眞に日本の保護統治を喜ばざる間は到底之に贊同せざるは何人と雖も不可思議とせざる所なり、各道書記官等が觀察使の說に贊同すると云ふに至ては最も怪まざるを得ず、昨夏以來政治的鎮定の効を奏せずして益々猖獗し、軍隊の力に依らざれば到底鎮定すべからざることを了解して方針を一變したるにあらずや、苟も日本人として此見易き道理を辨ぜざるの謂れなし、恐らくは之れ風說に過ぎざらん、況や統監の方針復舊に於てをや、

外人間の非難も亦風說に過ぎざらむ、何となれば我皇軍の規律嚴正にして秋毫も犯す所なきは能く彼等の知る所なり、我軍が淸國と戰ひたるときに於て、露國と戰ひたるときに於て、規律の嚴正なりしは敵軍さへ感歎したるにあらずや、殊に彼の北淸團匪事件に於て英獨米露等の各軍隊と共に戰ひたる我軍隊の整正堂々たる行動は當時列强の稱讃したる所に非ずや、之を知れる外人にして我軍の行動を非難するが如きことあらば、井は何か爲にする所ありての事ならん、斯る輩は我軍隊を批評するの資格なきものなり、

惟ふに軍隊討伐を非難するものは我統監政治を妨害するものに非ずんば、宇內の大勢に通ぜざる沒分曉漢なり見ずや英國の印度に對する嚴然として常に兵力を用ゆるに躊躇せず、佛國の安南に對する、米國の非島に於ける手段を、强力を用ひて汲々尙及ばざるを恐るゝの觀あり、斯る大勢に於て帝國が暴徒討伐に軍隊を用ゆる何の憚る所あらんや、殊に軍隊に非ざれば到底鎮定せざればなり、統監由來宋襄の仁に富めりと聞く之れ余輩が懸念に堪へざる所なり、帝國の宗主權を完ふするに於て最も忌むべきは宋襄の仁なり、統監政治に失敗ありとすれば其原因は即ち是なり、余輩は呉々も斯る俗說に傾聽せず断々乎として一擧討伐を貫徹せられんことを勸告するものなり、

●漢城便り

▲居留地の元老申候に京城に駐在せし我歷代の公使は其失敗の場合に於ては何時も責を居留民と新聞と通信員とに歸して自家の面目を維持することに勉めたるものゝ由に御座候右の場合には退韓令を手輕く用ゐたりしものなりとの事に御座候

▲或人申候に統監も或意味に於ては公使の如きものなりと、されば伊藤公が失敗の際に於ける逃口が歷代の公使のソレに酷似するも無理ならずと被存候十數萬の居留民や新聞や通信員が公の面目の爲に犠牲とせらるゝを甘んずるや否やは近き將來に於て判明致すことゝ存候

▲矧川志賀氏頭本元貞氏新渡戸博士內村鑑三氏等皆札幌農學の出身にして米人クラーク博士の薰陶により一種氣品を有する學者となり現在世に特色ある貢獻を爲しつゝあるは快心の次第に御座候京城在留の歐米人は頭本氏を以て伊藤公の右腕の人と申居候

▲本願寺大聚敎會に多數韓人の出入するは慥に注意すべき新現象と被存候稻は正に黃ばみ居候僧侶諸君は振つて鎌入に從事せらるべきものと存候

安東縣電報

▲暴徒江界に起る

平安北道江界郡江上面、江下面、益舘面、龍林面、火鏡面、前子面、チハサン、市塲、ソンバル地方に暴徒蜂起し前記各郡住民〇〇之れに加盟したるの報に接したれば慈城備守隊〇小隊は直ちに討伐に向ひたるも敵は頗る頑强なるより憲兵大尉憲兵〇〇名を引卒應援として出發且第〇〇聯隊第〇〇大隊は急行同地に向ふ(三日發)

雜報

●本日の謁見

伊藤統監は本日午前十一時昌德宮に參內し今回來韓されたる宇佐川中將及び一昨日仁川に入港したる練習艦隊司令官海軍少將吉松茂太郎氏同參謀石川中佐、嚴島艦長小花大佐、同副長大出中佐、同分隊長粟屋少佐、同笹原機關長、同加藤軍醫長、同太田主計長、橋立艦長西山大佐、同副長大瀧中佐、同水雷長森少佐、同田村機關長、同花輪軍醫長、長崎陸軍大尉及勝浦鞆雄、志賀重昂の兩氏を帶同し皇帝に謁見せらるべしと云ふ

●宮內府漁基問題

宮內府所管の慶尙南北道各郡漁基を入札に以て賃貸する筈なりしに漁基は原來帝室有なりや將た國有なりやの問題起り宮內府と度支部との間に押問答起り既に入札期日も確定し地方新聞に公告せられ居りたるに拘らず一時其の入札を中止せられ居りし事は屢に報導し置きたる處なるが今聞く處によれば右の根本問題の決解は後日に讓り本年は明かに度支部の所管に屬せるものゝ外は宮內府所管として處理せらるゝ事となりたりと云ふ而して右の係爭問題たる漁基は一個年の貸料三萬圓宛のものなるべしと

●寧邊貸地問題

寧邊地方の山野の一部を作蠶事業經營のため農商工部が日本人に貸下げたる事に關し同地の韓民が既得權を主張し不穩の狀態あるを以て內部大臣は右の許可取消を農商工部大臣に請求せしる旨屢に報導したるが今更に聞く處によれば內部大臣は右の取消を農商工部に請求せしに非ずして同地方韓民より其の取消しを請願し觀察府よりも此れを請求し且つ韓民不穩の狀ありと報告し來りたるを以て內部は其の請願及び請求を農商工部に移牒して相當の處分を求めたる次第なりと云ふ而して問題の目的地たる山野は從來韓民が稅金を納付して使用し居れるものなりと云ひ或は韓民は僅かに時々牛馬を放養したる事あるのみにして重大なる關係を有せしものに非ずと傳へ其性質明かならざるも追て精探の上報導する處あるべし

●驛屯土稅徵收依託

宮內府所管の驛屯土稅は隆熙元年度に限り其の徵收事務を度支部に依託せられしも本年分よりは宮內府に於て徵收すべしとの說ありしが本年以降も依然度支部に依託する事となり未だ公然依託せざるも略內定し居れりと聞く

●韓國統監府現狀

(萬朝轉載)

韓國統監府は設立以來既に三ケ年を經過し、年々三百六十萬圓の經費を投じ、其官吏の多き實に東京以外他に見ざる所にして現に閣下組と稱せらるゝ勅任官のみにても四十餘人あり、其他奏任、判任に至ては其數非常の多數に上れるに拘はらず、伊藤統監始め彼等吏員は每日何事を爲すべきやを知らず、生きたる事務は一もこれなく、隨て統監府は今や有れども無きが如き無用の長物となれり

▲酒食に耽る 彼等吏員特に高級員は執務時間過ぐるや、直ちに料理店待合等にシケ込み離だ酒食に沈湎するを以て任務となす殊に甚しきは時間中と雖も茶亭の中に事務を取る高官すらあり、從て此等茶亭の繁昌は非常なるものにて、近來は軍人中にも此弊風にカブレたるもの多し

▲統監府の勢力 斯くて統監府が韓國に於ける勢力範圍は、京城、開港場、鐵道沿線の各驛を限り、其他は滿然地を掃うて、一歩右の範圍外に踏み出せば、其危險にして無秩序なる日露戰爭以前と毫も異るなく、統監府の必要何にありやを知るに苦む程也

▲何の成績もなし 然れば統監府設置以來果して何等の成績を擧げたりやと問はゞ、遺憾ながら何事も之れなしと云ふの外なく强て之を求むれば皇太子殿下の御遊學を實行し得たると、目賀田氏の献策に係る下記數件の實行若くは計畫のみ即ち(一)帝室財產の整理着手(二)中央金庫の制度を設けし事(三)支金庫の制度を地方に設けし事(四)貨幣を整理せしこと(五)各地に農工銀行組合を設けし事(六)重なる開港場に水道布設の計畫を爲せし事の數事に過ぎず

▲獨り天下 殊に御本尊たる伊藤統監は日を追うて虛榮心を昂め、獨り天下の鼻息のみ荒く、中には人材の大に用ふべきものあらんも、統監に對しては彼れが意を迎ふるより外、其地位を維持するの道なければ事務の擧らんこと思も寄らず、此の如くして年々如何に多額の費用を投ずるも、其成績の擧らざるは當然と云ふべく、今に於て之れが革新を希望するもの漸次多きを加へ來れるは是非もなし

●水產調查の進捗

農商工部水產局は本年三月より全國の水產事業殊に漁業、製造、養殖、販賣に關する事項の調查に着手せし事は既に報導したる處なるが今當局者に就きて該調查進捗の模樣を聞くに初め此の調查に着手せんとするに當り全國を十七區に別ち即ち沿岸を十四區河川を二區遠洋を一區とし第一期の調查は沿海の各區に技術家一人宛を派遣し各區共調查すべき土地と期日に限度を付し三月中に其の調查を終れり第二期は第一期の殘部及び江川遠洋三區の調查にて本月より着手し七月迄に全部を完了する豫定なり元來韓國に於ては施政の參考に資すべき統計調查の類に乏しく殊に水產に關しては其の基本たるべき一般の調查せられたるもののなきを以て水產局は水產繁殖保護の目的、漁業者保護取締、漁業權設定、水產上の獎勵方法を定め水產稅賦課徵收の法を定むる等の諸目的の其の他官民施業の參考資料に供するため此の調查に着手したるものにして右の調查終了の上に漸次に漁業法、漁業免許手續法、水產稅則、魚市場の保護取締法、民漁業獎勵補助法等の斷定及び獎勵の機關として水產模範場の新設等の諸施設となる筈なるも水產局は本年一月の新設にして本年中は右の諸施設準備の時期に屬し明年度より漸次實行を見るべしと云ふ

●賊徒伐討狀況

△平南陽德守備隊より派遣したる斥候は五月七日陽德西方約十里の平壤街道に於て約九十の賊に遭遇し之を潰亂せしむ賊の死傷不明にして銃器五を鹵獲す△三陟守備隊長以下十五名は五月十九日部內搜索の結果四名の賊を捕ふ△忠淸南道藍浦憲兵分遣所の上等兵三名は五月廿八日藍浦東北約三里に於て約七十名の賊と衝突し之を潰亂せしめ其一を殪す△京畿道長端駐在巡查五名は五月廿六日陽德部內に於て四名の賊に會し其二を殪す△全羅南道順天警察分署巡查五名は韓人巡查三名と共に五月廿九日順天郡內に於て賊約四十を伐ち其三を殪し銃四を鹵獲す又同日別の日人巡查一韓人巡查二名は守備兵五名と共に同郡內に於て賊約十九を射ち其三を殪す△光州警察署巡查三名は韓人巡查二名と五月廿六日玉果の南方二里に於て約廿の賊を射ち其五を殪し若干を捕ふ

●豫備金支出裁可

臨時機密費四千五百圓暴徒掃鎭費增額二萬三百三十七圓は豫備金中より支出の件內閣會議の決議を經上奏裁可されたり

●典獄召集

本日新任典獄を內部に召集し會議を開き丸山警視總監訓諭後赴任せしむる由

●海潮新聞押收

浦鹽在住韓人崔晩學の發行する海潮新聞第六十八號より同七十號までは治安に妨害ありと認められ內部大臣より發賣頒布を禁止せられ之を押收したり

●練習艦隊出港期

目下仁川港碇泊中なる練習艦隊嚴島、橋立は來る八日出港の筈なり

●士官候補生の觀光

目下仁川に碇泊中の練習艦乘組少尉候補生百五十名は本日仁川驛發午前五時五十分の列車にて上京し宮城等を拜觀し南大門發午後六時二十分發の列車にて歸仁する筈なりと

●光濟號の沿岸巡視

沿岸取締船光濟號は昨日門司港に着したる報仁川稅關に達したるが同船は同港にて積炭の上釜山に歸り冬外串、鬱陵島、元山、城津、淸津、雄基灣等を巡視する筈なりと云ふ

●愛國婦人會演藝會彙報

△役員の囑托 愛國婦人會演藝會は多數夫人の熱心なる盡力に依り在留日本人の重なる向は勿論外國人韓人多數來會あるに依り演藝會委員中より會場案內接待活人畫等の各係員を囑托し來會者の等級に依り夫々既定の席に案內する由なり

△時間勵行 今回の演藝會は可成時間通り開催するの規定なれば第一日(五日)の入場券を求めたる方は定刻午後正六時迄には出席せられたき由なり

△活人畫題決定 活人畫題に付ては其後度々役員諸氏集會選定する所あり結局小式部內侍孝女白菊會我兄弟及衛戍病院負傷兵に對する本部役員の救護實況と決定せる由

●演藝會と臨時列車

統監府鐵道管理局にては本日より七日迄本町座に於て開催さるゝ愛國婦人會演藝會に關し特に龍山方面へ歸らるゝ同會員の便利を圖るべく六日七日八日の三日間に亘りて臨時列車を出すことゝなれるが其の時間は夜の十二時十五分南大門驛に發し同二十二分龍山驛に着する都合なりと

●杻峴驛改築

仁川に來去する旅客の多くは杻峴驛より乘降するを以て同驛は狹隘を感じ居たるが今回愈々同驛を改築することに決し其の前面の水田を埋築して壯大なる停車場を建設する由にて昨日より同水田埋築に着手したりと云ふ因に同埋築土砂は漢江より每夜臨時列車にて輸送する筈なりと云ふ

●仁川吳服商組合

仁川吳服太物商の重立たる者即ち末永省二、北川鐵二郎、宇治原四郎、橫山與四郎、井上保太郎、橫山淸吉、山本喜太郎の諸氏此程營業上に關する利害得失を討究し非發生事故に對しては適當の解決に務め組合一般に及ぼす營業上の利益を增進するの目的を以て吳服太物商組合なるものを組織し五月二十八日仁川理事廳に認可を申請したるが手續に遺漏あるため一旦書類の返附を受けしも昨日之を追補し再び認可の申請をなしたれば不日認可を見るなるべし

●醫學校卒業式

一昨日擧行されたる濟衆病院付屬醫學校卒業式には伊藤統監鶴原總務長官石塚參與官鍋島外務部長國分古谷兩秘書官韓國側よりは內部學部兩大臣出席伊藤統監は左の祝詞を朗讀し躬ら卒業證書の授與を行はれ米國總領事內部學部兩大臣の祝詞演說ありたり

本日本院第一回の卒業式に臨み卒業生諸子の榮を祝すると共に「エビソン」師等敎導の勞を多とす加之卒業生諸子に對して親しく卒業證書を授與するは本官の快心とする所たり韓國も他の東洋諸國の如く古來醫術の途開けさるに非るも近代歐米の如く一面には解剖生理を研究して病源の由て來る所を明にし一面には理化學の原理を應用して適當なる藥石を發見し以て治病の良法と爲すが如きに比すれば其及ばざること遠し故に本官當地に赴任するや直に韓國政府に勸告して大韓醫院なるものを設けしめ一方には治療を施すと共に一方には病院附屬の醫學校を設置して泰西的の醫學を敎授せしめんことを謀れり然れども開設日尙淺きを以て未だ卒業生を出すに至らず然るに諸子は夙に博識にして且つ實驗に富める泰西の博士先覺を師として文明的の醫術を攻究し今や其業を卒へ其學術を實地に應用する時期に到達せり本官は衷心之を祝し且つ諸子が先驅と爲り韓國醫術の開發に貢獻し國家と恩師とが諸子に期待する所に背かざらんことを望む

●菊地謙讓氏の歸朝

本日出發一時歸朝の途に就かるゝ筈なりし菊地謙讓氏は來る七日出發東上せらるゝことゝなりたり

●間島事務官任命

二日附にて左の如く統監府臨時間島派出所事務官を命せられたり

任統監府臨時間島派出所事務官叙高等官四等 勳六等 篠田治策

陸軍憲兵大尉正七位勳四等 楠野俊成
任統監府臨時間島派出所事務官叙高等官六等

任統監府臨時間島派出所技師叙高等官六等 八田吉平

●通譯官任命

理事廳屬高島吾八同運元丸の兩氏は統監府通譯官に任じ高等官七等に叙せられたり

●坂井義明氏送別會

本日午後七時より熊谷民長其他發起となりて民團議員商業會議所議員衞生組長京城醫會其他の人士は花月に於て前坂井病院長坂井義明氏の送別會を開催する由

●海賊討伐隊歸仁

曩に江華島の海賊を掃蕩す可く同島に渡航したる仁川警察署派遣小野警部の一隊は一昨夜無事歸署したり

公人私人

△服部漸(製鍊所技師) 一昨日來京天眞樓
△山田虎一郎(公州監獄典獄) 一昨日來京不知火旅館
△武市榮(陸軍三等軍醫) 一昨日來京浦尾
△渡邊信三(憲兵大尉) 旭旅館
△田部修(工兵中尉) 山本旅館
△芦田芳藏(大阪合同紡績社員) 一昨日新義州より來京浦尾旅館

●近事片々

▲萬朝子統監府の現狀を報じて曰く無用の長物設立以來三年何等見るべき成蹟なし
▲歲々三百六十萬圓の經費を投じ其官吏の多き東京以外他に見ざる所也と眞に然り
▲閣下組と稱せらるゝ勅任官のみにても四十餘人奏任判任に至ては其數非常に多しと
▲彼等吏員特に高級員は執務時間過るや料理店待合にシケ込み酒食に沈湎する也と
▲統監府の勢力範圍は京城及開港場鐵道沿線のみ此範圍外は危險にて日露戰前同樣
▲獨り天下殊に本尊の統監公は日を追て虛榮心を高め鼻息のみ荒しと是事實なる乎
▲何人も統監に對しては意を迎ふるの外地位を維持する道無れば事務の擧る筈無と
▲以上の眞僞は片々知らずと雖も世觀は僻に之に味方する者の如し眞ならば厄介也
▲東京の眞中へは未だ李完用宋秉畯が統監との關係は解らぬと見へ記載する者なし
▲嘗て統監公は東京にて自分を知る者は宋一人のみと言はる其宋君の現境遇は如何
▲現今では自分を知る者は完用一人のみと仰せられざるか知る人も隨分當にならぬ
▲觀察使を日本人とするの說は追々勢力を得來りたる觀あり蓋し此必要は慥にある
▲現在の觀察使に依りて地方行政の改革を望むは無理なる嘛也當局も早晩悟るべし
▲太皇帝聯邦政治の調查は果して眞なる乎之れ某大政治家の注意に依るとは疑はし
▲聯邦政治の現狀及歷史を調查しつゝありとは大朝子の報ずる所一向合點が行かず
▲志賀氏曰く邦人の韓國事情に通せざる甚し日本巡查仁川に日本女ありやと聞くと
▲大邱在留人にして永川に日本宿屋の有無を知らざる者多し何ぞ迂なるやと同感也
▲仁川に日本の女が居るや否を聞は迂濶也永川に旅店二軒あるが如きは知る者少し
▲邦人移住に就ては志賀氏の地方巡視は多大の効力あり氏の功勞決して沒す可らず
▲龍宮は統營なりと浦島太郎は長門の浦より舟出して巨濟島に漂着終に統營に入る
▲槻の大樹の一枚板の大橋今尙殘存せり大昔の繁華を推知せらると或は眞ならん乎
▲米國に六年留學して工學士となりたる渡邊某は雛妓との情交厚く癡樂情死をなす
▲其父浩歎して曰く米國留學に二萬金の費を要せり斯る死樣は天罰也と眞に然らん
▲斯る馬鹿者時々現れ親の面に泥を塗る痴情の爲貴重の命を捨つ世斯る愚からんや

東京電報

●大藏次官の交迭

大藏次官水町袈裟六休職を命せられ、主稅局長櫻井[illegible]太郎勅次官心得を命せらる(四日發)

●韓國法務協會の刷新

韓國に於て法律事務を取扱ふものゝ世評一般に惡しく此惡[illegible]事務を取扱協會員は十數名大邱、釜山、[illegible]群山、元山、平壤各地より上京して去一日松丸亭に會合し開會の時刻に至るや岩本英夫氏起て開會辭を述べて曰く韓國に於て法律[illegible]飾を加へ法律家たる所の德行を確守するに[illegible]わりと尙ほ同氏は刷新に關する規則草案を提出せしを以て逐條審議せしに滿場一致を以て可決し時期に應し法律新聞を發行する[illegible]に決し次に岩本英夫、[illegible]氏を[illegible]て幹事に推撰し酒宴に移り和氣藹々の裡に散會せしは午後十一時頃なりしと

●天氣豫報

(自四日午後六時至五日午後六時)

[illegible]四日午前六時各地氣象概況[illegible]晴れ(溫度昇る)

南又は東の風吹き概ね快晴なり

東京電報

▲大藏次官の更迭

大藏次官水町袈裟六休職を命ぜられ、主税局長櫻井鐵太郎同次官心得を命ぜらる(四日發)

●韓國法務協會の刷新

韓國に於て法律事務を取扱ふ協會員は十數名大邱、釜山、群山、元山、平壤各地より上京して去一日松丸亭に會合し開會の時刻に至るや岩本英夫氏起て開會辭を述べて曰く韓國に於て法律事務を取扱ふもの、世評一般に惡しく此惡[illegible]を除去せんには自己を顧み會員互に戒むるとに[illegible]法律家たる所の德行を確守するに[illegible]ありど尙ほ同氏は[illegible]に關する規則草案を提出せしを以て逐條審議せしに滿場一致を以て可決し時期に應じ法律雜誌を發行す[illegible]幹事[illegible]散會せしは午後十[illegible]

●天氣豫報 (自四日午後六時至五日午後六時)

[illegible]

雜報

●新聞記者と泥棒

大變々々怎麽標題を覩く、さ夫れこそ其處からも此處からも抗議が出て三面子の位置も為めに危くなる懼れありだが先あ聞き賜へ是れは昨日の午前九時頃のことなれば大概の判任ならば疾くの昔しれ役所に出勤して上官ぞやらに叩頭の十度も繰返したる頃なるに大和町二丁目邊の住人何がし新聞の記者穴田先生と云ふが短かい夏の夜の明けたも知らず未だグウ／＼の最中枕頭にて泥棒々々と呼はる者あり如何な縦坊の穴田先生も是れでは堪めずに居られずヤッと起き直りて泥棒は何處だいと眠い眼を摩りつゝ見れば遂い小さい塀を向ふの隣りの濕突に十七八の總角が今や忍び入らんとして居るにぞサシッたりいでや筆持つ此の腕に泥棒の一人二人縛り上げて書けた樣な刑事や巡査さんの鼻突き開かして與りようばいさばかり飛び出さんとしたるが根が貴公子風の穴田先生待てよと寢亂れの髯をカイゼル式に捻ぢ直し夫れから寢衣を着替へて帶〆め直して之れで仕度が出來たりなど悠々閑々さ出掛たるが此れで大概の泥棒ならば悟り相な者然るに未だ知らぬは道は朝つぱらからの泥棒程わりて感心／＼と其處の濕突が神秘で泥棒は开を覗かうとして居る時八か何かの機に興味を感じて夫れでも神秘は神秘泥棒は泥棒であるを忘れずに腰つき怪しら近よらんとする刹那に此方は君い無邪氣な其の細君が雛棚から奴雛が轉げ落ちた程の騒ぎ方遂に泥棒の慌る處となりたれば道は大變と泥棒は跡白浪穴田先生三面種ならぬ泥棒を見ン事取り逃がして暫し口アングリ聽て夫婦相顧みてアハッハッは時節柄には些と振つた滑稽飯事見た樣な事では何んぼ何んでも泥棒はつかまりませぬよッ……

●海賊巨魁就縛

過日來より江華島附近に海賊出沒し常に暴徒と氣脈を通じて容易に其筋の手に捕縛されざる次第なるが今回通津巡査駐在所巡査の手に一名の巨魁を捕縛し尚[illegible]押送し來りたるが詳細は目下取調中なるを以て追て報道する所あるべし

●白銅貨偽造

平安北道定州郡古邑牧場里金炳學(二十)同德川郡[illegible]洞里無職朴應弼(三十)平安南道平壤郡堂界洞帽職趙泳基(四十)平安北道定州郡阿耳浦面一里農崔致行(三十)同郡同村金細工職崔俊彦(二十)等の[illegible]せる韓國白銅貨偽造事件を聞くに前記金炳學は昨年十二月頃德川郡より平壤に來り堂界洞の李雄煥方に滯在中同中和洞東義軾方に宿泊せし金炳學なるものと出會し舊識の間柄なるを以て互に往復中共謀し白銅貨偽造を企圖せしも偽造の器具なきに困り居る際本年三月初旬朴應弼は群て德川にて相知り當時自己の宿泊せる旅舍李雄煥方の養子となり居る趙泳基に平壤西川内金興祿なるものゝ偽造器具を販賣する旨を聞知し金炳學朴應弼趙泳基等相謀り金炳學より金二十圓を出し之を買取り金炳學は本年三月初旬器具を持ちて定州に至り同地居住崔俊彦价川郡居住李石福なるものと語らひ丙炳及崔俊彦等の居宅にて白銅貨鑄造の計畫を爲したるも設備不完全にて鑄造するに至らず再び三十餘圓の資力を得朴應弼及金炳學の二人は本年五月十三日平壤に至り材料たる銀水及「インキ」を買求め尚計畫上の連絡を取る為め朴應弼を殘し金炳學趙泳基は本年五月十八日平壤出發途中二泊同二十日定州着阿耳浦一里崔致行なるものと語らひ偽造の計畫を務めたるも崔致行は目下農事多忙の故を以て二三週間後に着手することに決定し居りたる際今回平壤憲兵分隊長憲兵佐長菊池主幸の探知する處となり五月廿五日以來捜索の結果朴應弼及趙泳基は平壤にて金炳學崔致行崔俊彦は定州にて共に逮捕取調の末五月三十日平安北道觀察府裁判所に送致せりと云ふ

●滑稽婚姻物語

明治町二丁目に尖頭高く聳ふる佛蘭西敎會堂よりも高き金貸鬼野熊藏と云ふ男あり妻との仲もさして惡いと云ふ程でもないが奧と疊は新らしきに限るとの諺でもあるまいが永年連れ添ふたことゝてモー餘程古くなり獺の生へそうになつて鼻につく時分となりし矢先妻のたが何かフト病氣に罹り日本に保養の為めに歸りたるにより一時に閑寂しくなりたれば之を幸ひに内の嬶にはモー厭き／＼したれば一層離緣せんと思ふから誰れか一人程能き女を貯煎りては吳れまいかと會ふ人毎に頼みしが遂になるハガソツ恰好な女があるからお世話しましようと云へばソツ結構間ひ卒れ頼みいたします普は急げと直ちに結婚の式を擧げんと大喜びなれば其人は山口縣の產れにて帽を買ひませんかと帽箱を肩にして戶毎を呼び歩るくお何といふ一寸顏の皮剝けた二十歲位の女に此の話しをなしたれば何は金持のお神になるかと天にも昇る心地にて大に喜びそれでは早速嫁きましようよろしくお願ひ致しますと二言と云はず承知したれば其人も喜び此事を熊藏に通じたるに熊藏も又た喜び魔の付か内に結婚の式を擧げんと此程其式をいとも四海波靜かに舞ひ納めたまではよかつたが近所の者の惡戯か又は妻君に同情してのことか此始末を郷里に療養中の妻に宛て電報にて知らしたるにぞ病氣も快癒し居りし妻は此電報を見て大に驚き取る物も取り敢ず渡韓し我家に歸り見れば結婚後四日目と云ふ新夫婦は最も睦じく並び居る態度に怒るまいことか忽ち眞向に角を生やし貸郎はなの百萬遍を繰り返したる騒ぎに媒介も熊藏も大に弱り果てたるが遂に仲裁する人ありて四日間の花嫁料として五十圓を差出して元の如く波風靜かに納まりたりとは先づは目出度く／＼

●只飲や濱の眞砂

石川ならぬ只飲みの絶ねぬ世なるかな旭町二丁目左官職大山飛松方に同居する福岡生れの榎本清松(三十)は三日午後十一時頃同町一丁目奴亭にて二圓餘の酒食をなしたるもイザ勘定が一文も無く例に依つて警察沙汰となり遂に飛松が仕拂を保證して辛つと事濟み

●電車に行當る

一昨日午後四時頃南大門停車場附近にて六十餘の老韓人が酒に醉ひて通行する向ふから電車が來合せ車掌が頻りに鈴を鳴らすも線路の外に出でずアハヤ轢死せんとする處を僅かに身を交はしたるも尚多少の負傷を受けて手當をなしたり

●運の惡い小便垂れ

韓人が路傍に小便するに何の不思議があろう若し一々之を取締りたらば夫れこそ大變全警察署員を擧げても迚も及ばぬことを之れは運の惡い方泰元(四十)南宮術(三十)方榮根(四十)と云ふ三韓人は運もあろうに理事廳前にてやらかした爲め何れも科料に處せられたり

●賭博の最中を

西小門通り三番戶飲食店增木鹿之助(三十)明治町一丁目車夫櫻棒嘉藏(二十)南山町二丁目飲食店中島末藏(四十)明治町一丁目山田市太郎(三十)の四名は昨朝九時頃大韓日報社前の魚屋稻田政太郎の留守宅に於て賭博の最中を警官に踏み込まれ一同珠つなぎに引致されたり

●天然痘

大和町二丁目五十三番戶植木松次郎(四十)は一昨日天然痘に罹り青坡病院に送られたり

●民事取扱件數

去月中當理事廳に於て取扱ひたる民事件數は舊受五十二件新受二十二件判決十六件取下六件和解一件休止二十四件にして辨理中に屬するもの二十九件なりと

●興行

▲江川一座の乘込み [illegible]三代目江川[illegible]吉一座は一昨日釜山より當地に乘り込み來る十日頃より大和町二丁目にて花々しく興行する筈なるが右一座は去る三十七年十月中に仁川地にても興行し大喝采を博し恰も大東倶樂部の發會等にも招待され時の總代元帥君より『世傳技藝由足以妙入神』と題する大緞子の旆に目錄を添へて寄贈されたることあり興行中は大平所作事を混じて極めて愉快に觀客に觀せしむる筈なりと▲片岡長太郎一座 過日來本町歌舞伎座にて興行中なりし同一座は目下仁川歌舞伎座にて興行中▲本町座の女義 相變らず大入りを占めつゝあり

●朝鮮第四號發行

有益なる記事清新なる趣味は號を重ぬるに從つて益々其誌上を賑はし來れり、愈々出でゝ愈々活動すとは其の發行所の店前に特書せるもの强ち自讃の言にあらざるなり、本誌識するところ論文としては例の各名士の高説卓論にて持ち切れるが言々一として事相の背綮を穿たざるなく又其の他時事評論、名家叢話、雜纂文藝等何れも時代の風潮に鑑みて筆を執れるもの蓋し編輯員の大車輪なる想察するに餘りあり而り苟も韓を韓半島に置き半島動下の形勢と事情とを知らんと欲するものは是非とも毎號を坐右に備へざるべからざるは敢て言ふ迄もなき所とす

(平民文庫)

▲明治湯に行つて居つたらば一人の盲人が來たが夫れが勝手が判らなくて立往生をして居ると傍に八字を生やした立派な紳士が手を取つて鄭寧に湯に入れてやつた此の紳士が今に床しく思はるゝ(實見生)▲龍山桃山道の下宿屋の二階から往來の人にビール瓶を投ぐる者がある危險千萬不都合な事だ(通行人)▲龍山桃山道の街燈に石を投げつくる馬鹿者よこれから其んな惡戯をすると貴樣の名を新聞に投書するぞ(桃山の牛太郎)▲貴社の投書箱を本町座の前に設けて下さい(本町二丁目生)▲韓國にて判任官任用試驗を受くるには如何の程度なるや敎示を乞ふ(老給仕)▲夜半過ぎての亂痴氣騒ぎは附近の迷惑甚しい其の筋は料理屋飲食店に對して充分の取締をせよ(安眠不可能生)▲ぼつ／＼暑氣が加はると共に惡疫が氣になる掃除夫は隅から隅まで氣を附けて汚物を持つて去て吳れ玉へ(衛生家)▲凉しき夕風を趁うて南山の[illegible]きはされから妙だ(銀節)▲鐵道印刷部[illegible]として居る何とやら云ふ[illegible]君に[illegible]三[illegible]味線の[illegible]しい(木轉婆)▲かれも亦[illegible]な(好句生)

華族樣に口說かる (五)

◎書生さんは尾崎行雄 ‥‥‥西の宮お樂の述懷

サテいろ〳〵と考を廻らしましたが之といつて別に香ばしい方法がありませんから或晩コツソリと田町の知る邊をたよつて身を隱しましたがツマリ夜逃げと出掛けだんです、所で其の頃の吉原醫者で書生さんに惚た夫のない女はありませんでした、妾しも二人程其の書生さんを探し當てましたが其の二人の書生さんといふのは何方等も三田の慶應義塾にいらつしやる人ですが妾しは此の二人の書生さんにスツカリ惚れて了ひ毎時もお座敷の歸りには車でもつて吉原から芝の三田迄通つたものです、其の書生さんに會ふ樣子なんといふものはまことに可笑しい位、車夫が梶棒を下すか下さないのに妾しは車から飛んで降り書生さん達が寄宿をして居る窓の燈火を目當にして小走りに其の窓の下に參りましてピー〳〵と口笛を吹く、此の口笛は兼て示し合せてある相圖ですから先方でもソレこそ感付いて窓から顏を出しやハリ口笛を吹きまして暫らく妾を待たせ置てはコツソリと忍んで參りましたが限つて二人連で決して一人ではありません、ソレで妾の顏を見ると『たらく今夜は土産は何にか』と聞いたもんです、妾も又其の度毎に何かしら土産を持つて參りましたが二人の書生さんは『アヽ此りや旨い〳〵』と其の土産を食べたもんです、ソシテ其の土産は大抵雷門のおこしか紅梅燒です、ソンな工合で別に淫らしい關係といふものは少しもありませんでしたがサテ妾がお座敷なぞへ出ますると夫りやもう明つ放しで二人の書生さんの惚氣許り申しましたから一時はお客樣中で妾をお樂と呼ぶ人はなく福澤塾々々と申しましたがトウ〳〵ソレが綽名となつて了つたのです併し妾も其時分は年が年ですから色氣がありました此の噂がパツと立ちましてからは只其の書生さんの顏ばかり見て居るのも詰らないと思ひまして其の二人の中何方かを情夫にしようと考へましたが兩方とも勉強家で氣質がよいので實際其の撰擇に迷ひました、或る時は『那の人に仕樣か……イヤあの人は顏立は宜いが何だか身体が弱々しいからイツソ此方の人に仕樣か、那の人なら體格も宜くツて強そうだから……ダガ何だかソウなると私をひでくしそうだワ……ちや矢ッ張り前の弱々しい人に定めやうか知ら』などヽソレはく〳〵いろ〳〵と氣を揉んだものです、サテ其の結果トウ〳〵其の丈夫な人の方に心を寄せ身体を任せることに致しましたが後になツて考へて見まするとツマリ其の時妾が其の人を見損ッたのです、其の時妾が其の身体の弱い人にさへ關係をつけて置きましたら今頃は立派な奥樣になツて馬車にでも乘ツて居る所です弱い身体の人とは尾崎さんの事なのです(つゞく)